2022年度活動概要　　応用認知言語学研究会

「応用認知言語学研究会」は、2013 年度より九州・沖縄支部に発足した研究会です。本研究会は、言語学の分野で近年成果が著しい「認知言語学」の知見を、言語教育、特に英語教育の現場へどう生かすかを探るという観点から活動しています。

2022 年度も引き続き新型コロナ（COVID-19）の影響により研究調査活動が制限され、対面での研究会を行うことはできませんでした。研究会のあり方を検討する中で、認知言語学についてより知識を深めたいという会員の要望があり、2023 年度より輪読会を行うことになりました。そのため、2022 年度は輪読会で扱う書籍の検討を行いました。いくつかの候補の中から、認知言語学の観点から英語の文法事象について詳しく記されているということ、また文法事象を網羅的に扱っており教育の現場への応用について考えやすいということから、John Benjamins の Cognitive Linguistics in Practice シリーズの *Cognitive English Grammar*（Günter Radden & René Dirven 著）を輪読会の対象書籍として読み進めることに決まりました。

また、本研究会の研究テーマである認知言語学を教育現場に活かす活動の一環として、今年度は本研究会の代表の長 加奈子（福岡大学）が第 72 回全国英語教育研究大会（全英連佐賀大会）において、中学校における教育実践に対する指導助言者として「パフォーマンステストにおける文法事項と言語話者の認知」という観点から指導助言を行いました。中学校の先生方からは、これまで考えたことのなかった観点であるとの評価を得ています。また、言語話者の認知の観点を取り入れた文法事項ごとのタスク集のようなものを開発してほしいとの声があがっており、研究会として検討を進めていく予定です。